

テーマ 教育の質を高めるチーム学悠館 **強みを活かして「変わる自分、変える未来。チャレンジ学悠館！」**

本年度の目指す生徒の姿

- 夢や希望を抱いて未来を描き、その実現にチャレンジする生徒
- 自分の能力に気づき、**主体的**・自律的な学びに真摯に取り組む生徒
- 多様な価値観を尊重して他者と協同し、共に成長する生徒



取組の視点

- よりよく生きるための資源となる健やかな心と身体を育てる
- 生徒の**強みや可能性**を引き出し、**主体的**・自律的な行動につなげる
- 諸活動の中で、仲間を信頼したり、貢献したりすることのできる豊かな感性を育てる
- 過去3年間の取り組みを総括し、諸活動の意味づけを再確認する
- 優先順位、スクラップ&ビルドを意識する

努力点	学校自己評価				学校関係者評価	
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果	次年度以降への改善策		
主体的に参加する学習活動	生徒の主体的で自律的な学びを引き出すために、すべての教員が授業研究を大胆に進める。この研究成果を共有する場として、授業を積極的に公開し、教員どうしが切磋琢磨する。	教員の「公開授業・研究授業」の実施する割合が、90%以上A、90%未満70%以上B、70%未満C [昨年度の公開授業実施率72%]	A	A	90%でA。主体的に参加する授業を進めるために次年度も研究授業を積極的に実施。負担を減らし授業公開を要請する。 貸出1,358冊で増加、参加者184名で同数になりA。コロナ対策を立て、図書館リエンターションを再開し、行事への参加や図書館利用を勧める。	教員による「公開・研究授業」の実施率が90%を超えたことは評価できる。研究授業等で得られた成果や課題を教員間で共有を図り、授業改善等の成果を生徒の学びに反映される事を期待したい。
	これまでも図書館企画の充実を図ることで、図書館や読書の魅力を発信して文字活字文化に親しませてきた。さらに、生徒を図書館に呼び込む企画を催し、読書意欲を喚起する。	貸出数・企画参加者数が、両方とも増加A、片方が増加B、前年度並みまたは減少C [昨年度の年間貸出1,282冊、企画参加者184名]	A			
キャリア発達・進路実現を促す活動	『履修のてびき』の各教科のモデルプランや『科目配置一覧表』に工夫を施すことで、生徒の進路希望に応じた履修指導の充実を図る。	履修指導に関する生徒アンケートを実施する。進路を意識した履修計画が作成できたという生徒の割合が、60%以上A、60%未満50%以上B、50%未満C	A	B	生徒の履修希望に沿えるよう、科目配置・Ⅲ部開講科目の改善を進めると同時に、新教育課程への移行をふまえて多面的に検討する。	進路の実現に向けて、生徒の実態に応じた取り組みが展開されていると感じる。一方で、生徒の強みとしてこれまでの不登校等の実体験を活かしたボランティア活動など、生徒の成長につながる社会での貢献機会の確保の工夫をするのも良いのではないかと。
	「総合的な探究・学習の時間」を効果的に活用し、「キャリアパスポート」と「ポートフォリオ」に取り組ませる。これを通して、生徒の主体的なキャリア発達・進路実現をサポートする。	本校の教育活動に関するアンケート(教員対象)の「項目3・キャリア教育」の達成状況の評価Aが、30%以上A、30%未満20%以上B、20%未満C	B		「キャリアパスポート」の電子データ化推進への準備を始めるとともに、「総合的な探究の時間」の内容の充実と体系的な実施計画を構築する。	
開かれた学校、地域との連携・協働	地域の方々や受検希望者に向けて、学悠館の魅力を情報発信する。とりわけ、本校の「強み」や主体的に学校生活を送っている生徒に焦点をあてて広報する。	「強み」や主体的に学校生活を送っている生徒の姿を意識して、『学校案内』の作成やHPの更新が、できたA、おおむねできたB、不十分であったC	A	A	HPの活用に加えて学悠館チャンネルが新設されたことで、受検希望者への情報発信が充実してきた。さらに工夫・改善を進める。	『学校案内』や『学悠館だより』等の印刷物やホームページによる広報は、外部に対して本校の教育活動への理解を深めていると感じる。さらにYouTubeを使った学校の紹介など、開かれた学校づくりに努力していると感じる。
	『学悠館だより』やHP等を通して、学校の状況とPTAの活動を積極的に保護者に伝える。保護者アンケートの調査において、この項目の積極的・肯定的評価の回答率のさらなる向上に努める。	積極的・肯定的評価の回答率の「よくあてはまる」の割合が、60%以上A、60%未満50%以上B、50%未満C [昨年度の「よくあてはまる」53.4%]	A		『学悠館だより』やHPを通し、積極的な情報発信を継続する。また、アンケートで低評価の項目の改善に努め、本校の取組を保護者に周知する。	
	インターンシップ、ジョブシャドウイング、看護体験、介護体験、寺子屋みらい、体験学習などを通して、地域との連携を促進し、生徒の協働の意識の醸成を図る。	参加者数の合計が前年度を上回るA、同程度B、下回るC [昨年度の参加者数の合計140名]	B		感染症対策を講じながら、地域との連携・協働を図る方法を構築する。加えて、行事や体験活動の効果的な実施方法について検討する。	
体力の増進と健やかな成長	『保健だより』や掲示物を通じて保健指導を行い、生徒の健康に関する意識の高揚を図る。	生徒アンケートを実施し、「健康に留意した」と答えた生徒の割合が、60%以上A、60%未満50%以上B、50%未満C	A	A	「留意した」と答えた生徒は79%。コロナの影響で健康に関する意識が高まった。引き続き、『保健だより』や掲示物等で健康を啓発していく。	生徒の健康に関する意識高揚のための取り組みについて、アンケート結果から成果があることがわかった。コロナ禍の中でも、今後の健康な生活を意識がさらに向上するよう取り組みを進めていただきたい。
	主体的に部活動、学校行事に関わらせることにより、生徒自身の長所に気づかせる。この気づきを引き出す行動の基盤となる健やかな心と体の成長を促す。	生徒アンケートを実施し、部活動をはじめとした特別活動において自分の心身の強化が十分図れたと答えた生徒の割合が、60%以上A、60%未満50%以上B、50%未満C	A		コロナ禍の中、練習を重ねて優秀な成績を取めた部活動もあった。今年度の経験を活かして新発想で計画運営し、健やかな心身の育成に努める。	
豊かな人間性・社会性の育成	LHRや学校行事など、多様な価値観を尊重して他者と協同する機会を多く設定する。これによって、人間関係を構築する契機として活かせるように導く。	生徒アンケートを実施し、協同的な活動を通して、豊かな人間性が身についたと答えた生徒の割合が、60%以上A、60%未満50%以上B、50%未満:C	A	B	生徒会役員中心で提案・実施に至るものもあった。さらなる共生の意識向上を目指し、意欲的に取り組む土台づくりに努める。	さまざまな課題をもつ生徒に対して、丁寧なチーム支援が行われていると感じる。一人ひとりの課題解決は難しい部分もあるが、今後も引き続き取り組んでいく必要がある。また、特別活動や学校行事を通し、人間性や社会性の育成に向けて取り組んで欲しい。
	生徒や保護者が抱える課題について、生徒情報交換会・ケース会議・研修会等の開催や情報共有、SCとの連携を通して、組織的な支援体制の構築を図る。	課題の解決に向けた支援によって、成果が上がったA、組織的に支援ができたB、不十分であったC	B		相談部と年次・部・HR担当がさらに連携し、支援が必要な生徒について確実に「情報共有」し、「チーム支援」につなげる体制を強化する。	
安全安心な学校生活の提供	計画的な校内外の巡回指導やアンケート、日頃の生徒観察、声かけを実施し、問題行動等の未然防止を図る。	巡回や声かけによって、問題行動等の未然防止の成果が上がったA、前年度と同程度であったB、不十分であったC	B	B	校内外の巡回指導を継続しながら、生徒が自律的に自らの行動を選択するよう声かけをしていく。	生徒や保護者アンケートにおいて前年比で少し低い評価となっているが、安全安心の取り組みが熱心に行われていると感じる。今後は、保護者等に対して取り組みが十分に理解が図られるよう工夫が必要と感じる。
	生徒の美化意識を高める働きかけを行うとともに、積極的に校内の清掃活動に取り組めるように工夫する。	各アンケートで校内美化に関する肯定的評価の数が、増加A、変化せずB、減少C	B		清掃活動に参加する生徒がいる一方で、美化意識の低い生徒もいる。各人が美化意識を育める環境作りが必要である。工夫を凝らして啓発する。	